

博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
申請大学名	京都大学	申請大学長名	松本 紘
申請類型	複合領域型（安全安心）	プログラム責任者名	淡路 敏之
整理番号	D01	プログラムコーディネーター名	寶 馨
プログラム名	グローバル生存学大学院連携プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

現代の地球社会においては、①巨大自然災害、②突発的人為災害・事故、③環境劣化・感染症などの地域環境変動、④食料安全保障といった危険事象や社会不安がますます大きく、かつ広がっている。

本学位プログラムでは、「グローバル生存学」という新たな学際領域を設定し、

(1) 人類が直面する危機を乗り越え、人間社会を心豊かにし、その安寧に貢献するという使命感・倫理観にあふれた人材

(2) 自らの専門性に加えて幅広い視野と知識・智慧によつて的確に対策を行うことのできる判断力・行動力を備えた人材

の育成を目指し、安全安心分野において研究・教育の実績・経緯をもつ研究科が結集して、研究科横断型の大学院連携の教育システムを確立する。

2. プログラムの進捗状況

本プログラムを実施するための学内組織として、平成24年2月に発足させた「グローバル生存学大学院連携ユニット（GSSユニット）」において、プログラムコーディネーターをユニット長とし、9研究科3研究所の12部局の代表者からなるプログラム教授会を毎月1回定期的に開催することとした。平成24年4月より、専門職員2人、事務補佐員3人を雇用し、ユニット事務室に配置するとともに、授業担当及び履修生のメンターとして特定教員を合計7人雇用し、プログラムの円滑な運営を行っている。平成24年4月に参画各研究科・専攻の修士課程入学者の中から応募があった36人の学生を5月から8月にプログラム予科生として履修させ、9月に21人の本科生（プログラム履修生）を選抜した。10月から開始した本科では本プログラム独自の必修科目「リスク学通論」を開講するとともに、インターンシップ、フィールド実習、学際ゼミナール、国際スクールを受講する機会を与えた。45人の国際アドバイザーを指名し、国際アドバイザー会議を2回開催した。また、履修生の進捗状況管理・成績管理などのためのポートフォリオを作成し、2年次への進級審査における評価資料とした。そのほか、特待生奨励金および研究活動経費支給の制度を設け、希望者の提案を審査・選考した上でプログラム履修生の経済支援を行っている。以上の通り本プログラムは、所期計画に沿って順調に進捗している。